

紙のアートフェスティバル 特別展



あしざわまさひと
漆畑ゆう子
遠藤和帆
遠藤真由美
小川浩子
小池千彩美
collage
白砂勝敏
榛葉織衣
鈴木雄一郎
高木健一
谷本和身
ナガタトシヒロ
野網克美

ART FESTIVAL OF PAPER SPECIAL EXHIBITION

October 20—December 13, 2020 (November 16・17 closed)

2020.10/20(火)—12/13(日)

開館時間 | 10:00—18:00

休館日 | 11/16(月)・17(火) ロゼシアター休館日を休館いたします。

観覧料 | 無料

主催 富士市 主管 一般社団法人富士芸術村

〒416-0953 静岡県富士市蓼原町1750番地 富士市文化会館ロゼシアター内 1階東側奥 TEL 0545-32-6581 FAX 0545-32-6582 富士・紙のアートミュージアム
<http://www.fuji-paperart.jp> Fuji Paper Art Museum



紙のアートフェスティバル 特別展

ART FESTIVAL OF PAPER SPECIAL EXHIBITION

2020.10/20(火)–12/13(日) 10:00–18:00 休館 11/16(月)・17(火) 観覧無料

主催 富士市 主審 一般社団法人富士芸術村

紙のアートフェスティバルは12回目を迎えました。

今回は特別企画として、段ボールで作られた箱[50×50×35cm]内に表現された14点の作品を展示いたします。

紙のアートフェスティバルの初めての試みですが、作家は制約された空間で紙の魅力を引き出し私たちに何を伝えてくれるのか期待される展覧会です。

当ミュージアムはこれからも新たな試みで紙の魅力の情報発信を続けていきます。

<p>遠藤和帆 東京造形大学卒業後、東京都の機元にて染織工房を設立。国内外で個展、グループ展などにより作品を発表している。近年では2013年Japanese Artist Group Show(NY) 2015年 糸染展宇フォーラム美術館 2020年 個展 border lineなど多数。天然繊維、染料による布の制作から、繊維による造形を主に表現目的に合致した素材を使うことで人は自然の一部でありその関わりの重要性を問い掛ける造形活動を行なっている傍ら富士山の素材を活用した造形、展示、企画運営も行う。</p>	<p>遠藤真由美 1974年 静岡県富士市生まれ 1994年 奈良芸術短期大学情報デザインコース卒業 1995年～「モモクリテン」を富士市内で開催 2005年 富士市・富士芸術村1周年記念展「空をたたく」参加 2008年～「アートセッション」参加 2011年「第3回紙のアートフェスティバル」入選</p>	<p>小川浩子 1984年生まれ 静岡県富士市出身、在住 九州演劇協会所属劇団専属衣装方を務め独立 2020年3月「Atelier Tech」吉原商店街にてopen オーダーメイドで舞台衣装の制作を行なっている</p>	<p>漆畑ゆう子 1985年 静岡県富士市生まれ 2008年 京都造形芸術大学 空間演出デザイン学科卒業 2008年 飯島でつくる／鹿児島 2008年 WALL ART COMPETITION／銀賞受賞 2008年 三菱ケミカル JUNIOR DESIGNER AWARD／審査員特別賞受賞 2009年 国民文化祭 紙のアートフェスティバル／入選 2017年 新進アーティスト作品展／佳作受賞 等多数</p>
<p>collage design MEMORABLEの小笠原清美とユウイチロウデザインの鈴木雄一郎によるアートユニット。 インテリア、グラフィック、プロダクト等、様々な形で新しい表現を発信している。</p>	<p>白砂勝敏 美術家 演奏家 農業高校造園科卒業後造園業と放浪を経て美術家へ 美術は独学 2008年モンミュゼ沼津(沼津市立美術館)にて初個展(館企画) その後2020年4月末まで美術館・ギャラリー等で企画個展36回グループ展81回 かつて造園業に従事し数々の現場で石の見方 木の読み方を学んだ そして 自然界に抗えない力を感じ それに同調する事で自らの力を開放する事を覚えた 目に見えない感情や感覚 言葉になる前の衝動を具現化している</p>	<p>榛葉織衣 静岡県富士市出身 在住 女子美術大学 芸術学部 美術学科 日本画専攻 卒業 二児の母 アトリエバサリ講師</p>	<p>鈴木雄一郎 2006年 ユウイチロウデザイン設立 日本パッケージデザイン大賞2017 飲料部門 銅賞 東京TDC賞 2018 入選 ADC 2018/2019 入選 日本パッケージデザイン大賞2019 4部門入選 JAGDAグラバ賞 2008/2011 グランプリ 他受賞多数 日本グラフィックデザイナー協会 正会員 日本パッケージデザイン協会 正会員</p>
<p>高木健一 1976年 静岡県富士市生まれ 1997年 創形美術学校卒 2000-02・04年 個展(ギャラリーなつか) 2004-19年 個展(富士芸術村) 2009年 国民文化祭 紙のアートフェスティバル 2013年 紙のアートフェスティバル 2018年 個展(ギャラリーsun)静岡県清水区 2019年 個展(フェルケル博物館一階ギャラリー) 静岡県 2019年 紙のアートフェスティバル大賞受賞(個展 ふじ 紙のアートミュージアム) その他、個展 グループ展 多数</p>	<p>谷本和身 1969年 静岡県富士市生まれ 1990年 グループ展(CORE 永福町) 1990.92年 Pi[π]展(TEPCO富士) 1991.93年 糸の動き展 (TEXTILE FORAM 世田谷) 1991年～ART SESSION参加(富士) 1994年 二人展(ART SCRAMBLE 富士) 1998年 ふじの芸術家たち造形展(ロゼシアター展示室) 2004年 富士芸術村開村記念展 他 2019年 Earthworks at Mt.Fuji Pre-Event(富士芸術村・笹場) 等</p>	<p>ナガトシヒロ 1968年 静岡県富士市生まれ 1992年 ミヤコビエンナーレ 1993年 十美展 日本具象版画賞受賞 日本大学芸術学部美術学科研究所修了 1994年 浜松美術館版画大賞展SBS賞受賞 大阪現代版画コンクール 1999年 伊豆美術祭 優秀賞受賞 メキシコにて「日本の作家版画展」 2000年 新進アーティスト作品展 優秀賞 2015年 六本木605Gallery 2017年 Expo Contemporary ロサンゼルス その他、個展 グループ展 多数</p>	<p>野網克美 香川県出身 現在、静岡県在住 大学にて絵画、デザイン、建築の勉強を経て絵画作品を公募展や個展で発表。 2013年より緑雫の背後にBOXを作りつけ絵画的表現で立体作品を作り始める。 絵画作品と共に全国各地で個展開催。 公募展での受賞経験あり。</p> <p style="text-align: right;">作家名 五十音順</p>

紙のアートフェスティバルは、2009年「第24回国民文化祭しずおかin富士」において企画・開催された公募展。巨大な「紙」の造形作品13点が全国公募から選ばれ、ふじさんめっせ富士市産業交流展示場(富士市柳島)に展示された。翌年以降継続事業として会場を富士芸術村(富士市大淵・2020年3月閉村 現在の名称は旧藤田邸)に移して毎年開催。日本家屋の和室一部屋に1作品を自由に展示できる公募展として9年(回)続けられ、毎年4～5作品が展示された。2019年11回目より、会場をふじ・紙のアートミュージアム(富士市蓼原)に移し、約78㎡のスペースでの個展として公募、大賞1作品による展覧会が開催された。そして今年も同様に12回目にむけて準備をすすめていたが、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止とし、今回の特別展の開催に至る。

予告 | 第13回 紙のアートフェスティバル 作品募集 スケジュール予定 (春) 募集内容発表 (初夏) 大賞決定 (秋) 展覧会開催
募集内容など、2021年度初めに当ウェブサイト内で発表する予定です。
お問い合わせや資料のご請求は、メール(info@fuji-paperart.jp)などでミュージアムまでご連絡ください。

ふじ・紙のアートミュージアムは、紙を素材とした芸術作品を展示します。そして、「つなげる・つながる」をテーマに芸術文化活動をしていきます。
当ミュージアムが拠点となり、富士市全体がミュージアムになることを願っています。(2016年11月1日開館)

- 交通 東名富士インターチェンジより約2.3km、国道1号より約2.2km、新富士駅より約2.2km、富士駅より約2.6km
バスの場合は、JR富士駅(北口バス停)から15分「ロゼシアター入口」下車 徒歩2分
新幹線 JR新富士駅(北口バス停)から15分「ロゼシアター前」下車
*発車駅によって到着するバス停が異なりますのでお降りの際はご注意ください。
- 駐車場は 富士市文化会館ロゼシアターの駐車場をご利用ください。
*ロゼシアター開催の公演により混雑する場合があります。



ふじ・紙のアートミュージアム
Fuji Paper Art Museum

〒416-0953 静岡県富士市蓼原町1750番地 富士市文化会館ロゼシアター内 1階東側奥
TEL 0545-32-6581 FAX 0545-32-6582 <http://www.fuji-paperart.jp>



次回の展覧会 | 寺内曜子展 2021.1/7(木)–3/14(日) 10:00–18:00 休館 1/18(月)・2/15(月)~18(木) 観覧無料